

資源評価調査委託事業・資源管理基礎調査（海洋環境）

日本海定線観測（要約）

清藤真樹・永峰文洋

目 的

青森県日本海海域における海況情報を収集し、漁業者等に提供する。

材料と方法

青森県の日本海定線において、試験船開運丸及び青鵬丸により7月と1月を除く各月1回、seabird社製CTD・911plusによる表層から最深1000mまでの水温と塩分の測定、採水による塩分、クロロフィルの測定、プランクトン、卵稚仔の採取を実施し、対馬暖流(日本海)の流勢指標を平年（1963～2012年平均値）と比較した。また、収集・分析した情報は、ウオダス漁海況速報や水産総合研究所のホームページ等で公表した。

結 果

観測結果を下表に示す。

0m層最高水温は平年と比べ、3、8月が「やや低い」、9、10、11、12月が「やや高い」となった。50m層最高水温は平年値と比べ、3月が「やや低い」、4、5月が「やや高い」、9月が「はなはだ高い」となった。100m層最高水温は平年と比べ、3月が「やや低い」、4、8、9月が「やや高い」、11月が「かなり低い」となった。対馬暖流の流幅を100m層5℃等温線の沿岸からの位置でみると、舳作線では平年に比べ、4月が「やや広い」、5月が「やや狭い」、8月が「やや広い」、11、12月が「やや狭い」となった。十三線では平年に比べ、2月が「かなり広い」、3、4月が「やや狭い」、6月が「かなり狭い」、10月が「やや広い」となった。対馬暖流の水塊深度を7℃等温線の最深度でみると、平年に比べ3月が「やや浅い」、4、6、8月が「やや深い」、11月が「はなはだ浅い」となった。

対馬暖流の北上流量は、水深300m層を無流面とした地衡流量でみると、平年と比べ3月が「やや少ない」、4月が「かなり多い」、5月が「やや多い」、6、8月が「かなり多い」、11月が「やや少ない」となった。

以上から、平成25年の対馬暖流の勢力は、8月が「やや弱い」、9月が「やや強い」、10月が「かなり弱い」、12月が「やや強い」、他は「平年並み」と評価された。

表 観測結果から算出した平年比（平年比％：平年偏差／標準偏差×100）

観測項目		2月	3月	4月	5月	6月	8月	9月	10月	11月	12月
各層最高水温(°C)	0m	+3	-87	-21	-7	+28	-63	+105	+125	+106	+87
	50m	-5	-123	+63	+63	-4	+30	+201	-47	-20	+57
	100m	+4	-95	+84	+55	+50	+118	+104	-42	-149	+18
流幅(マイル)	舳作線	+46	+8	+102	-73	-35	+87	+20	+15	-91	-116
	十三線	+183	-119	-116	+22	-169	+8	+55	+99	-27	+35
水塊深度(m)		-22	-94	+100	+9	+80	+74	+5	-26	-232	-55
北上流量(Sv. (10 ⁶ m ³ /s))		-47	-111	+163	+88	+140	+147	+54	+38	-70	+43
断面積算水温(°C)		2	-52	-45	46	-55	-121	120	-189	35	97
階級	平年並み	やや	かなり	はなはだ							
平年比の範囲	±60%以内	±130%以内	±200%以内	±200%以上							

発表誌：平成25年度漁海況予報関係事業結果報告書（青森県資源管理基礎調査） 平成26年5月

平成25年度定線観測結果表 平成26年5月